

Hab. Riukiu: Ugan, ins. Okinawa (S. TAWADA n. 747, Typus! In Herb. Imper. Univers. Kyoto.).

沖縄島の越来ウガンで多和田眞淳氏の採集された無葉の蘭で、ヤツシロランと同一の属ではあるがそれに比して花が甚しく小さく、花数が稍多い、氏によると全體白色であると、ジャバの *D. minor* J. SMITH そつくりではあるが、それでは根莖が倍程大きいのと、果時の小梗が伸長するのとが相違する。沖縄島のは若い果實を付けた標本で、それ及び採集者の多和田氏によれば果梗が殆んど伸長しない、新種と認めてヒメヤツシロランの名を附する

抄 録

ステビン氏: *Lactuca* と其の近縁の属——G. Ledyard STEBBINS, Jr.: Critical Notes On *Lactuca* and Related Genera; in Journ. Bot. LXXV (1937) p. 12-18。

Crepis に近縁の *Cichorieae* の植物を細胞學的、分類學的に研究せる著者は *Lactuca* の限界を以下の如く考へてゐる。——*Lactuca* は *Mulgedium*, *Lactucopsis*, *Mycelis*, *Phaenioxopus* 及び BEAUVERD 氏の云ふ *Cicerbita* の大部分を含む。*Lactuca* の特徴として 1). 花冠の筒部は舌状部の半分より以上の長さである。多くの種類では殆んど等長である。*Crepis* では花の筒部はもつと短い。 2). 冠毛の毛は比較的弱く且つ細胞の数が厚さに少ない。 3). 果實は平たい。側面に二つの強い稜か翼がある。先端は嘴があつて冠毛をのせる盤になつてゐる。*Crepis* では平たくない。嘴は發達しない。*Lactuca* の多くでは Vascular bundles が 2-3 であるが *Crepis* では一般に 5 である。この中で花冠の筒部の長さを強調してゐる。(北村四郎)。

ステビン氏: *Ixeris* 屬に就いて——G. Ledyard STEBBINS, Jr.: Critical Notes on the Genus *Ixeris*; in Journ. Bot. LXXV (1937) p. 43-51。

ステビン氏は *Ixeris* を *Lactuca* より區別して認めるといふ。*Lactuca* より *Crepis* に近いと云ふ。冠毛の横断面には *Lactuca* より多くの細胞があり、果實はほぼ圓柱状で 10 稜は不同がない。子房は 5 つの Vascular bundles がある。花冠も筒部は舌状部の $\frac{1}{4}$ - $\frac{1}{2}$ でこれ等の點は *Crepis* に似てゐる。*Crepis* と *Ixeris* との區別は果實の稜が強調されてゐるのと姿で區別される(果實に嘴ある點で區別されると筆者は考へてゐる)。*Lactuca sororia* MIQ. ムラサキニガナは *Lactuca* に入れる。冠毛と花冠は *Lactuca* 系で果實には 2-3 の強い稜がある。*Lactuca muralis* との關係は少ないと考へて *Mycelis* とは考へてゐない。*Turaixeris* NAKAI を *Ixeris* に含めた。*Paraiixeris* の type

は *I. denticulata* ヤクシサウであるが、MAXIMOWICZ に依つてその變種とされたイヌヤクシサウは *Ixeris* に入つてゐる。ヤクシサウとイヌヤクシサウの中間型がある。花が下垂する事や莖高く葉多いことはイヌヤクシサウにもあるし Typical な *Ixeris* にもある。故に *Paraixeris* を *Ixeris* に入れる。

Paraixeris denticulato-platyphylla は自然雜種で fertile であるのは *Paraixeris* と *Crepidiastrum* が同じ屬だといふ證になる。*Ixeris* と *Crepidiastrum* の區別は姿の外に嘴が *Crepidiastrum* にないこと。稜が強調されてゐない事である。これは屬を區別するには足りないといふ。

Ixeris subgn. *Crepidiastrum* STEBB.—*I. ameristophylla*, *I. grandicolla*, *I. Keiskeana*, *I. koshunensis*, *I. lanceolata*, *I. linguaeifolia* GRAY, *I. Quercus*, *I. taiwanensis*.

Ixeris subgn. *Paraixeris* STEBB.—*I. chelidoniifolia*, *I. denticulata*; subsp. *typica*, subsp. *longiflora*, subsp. *sonchifolia*, subsp. *elegans*, subsp. *ramosissima*, subsp. *pubescens*.

Ixeris subgn. *Euxeris* STEBB.—*I. gracilis*, *I. humifusa*, *I. integra*, *I. Lamii*, *I. laevigata*, *I. papuana*, *I. prolixa*, *I. pygmaea*, *I. retrorsidens*, *I. riparia*, *I. sagittarioides*, *I. siamensis*, *I. umbellata*. (北村四郎)。

バブコツク、ステピン兩氏: *Youngia* 屬: Ernst B. BABCOCK and G. Lebyard STEBBINS, Jr.; The Genus *Youngia*, p. p. 1-106, published by Carnegie Institution of Washington, 1937. No. 484.

Youngia といふ屬はオニタピラコに就いて H. CASSINI 氏に依り 1831 年に設立された屬であるが其の後 BENTHAM 氏は *Crepis* に入れてしまつてゐたがこれを起用するといふのである。特徴とするのは果實が *Crepis* の如く圓柱でなくて切斷面で脊腹に平たいこと、稜が不等であることである。分布は東亞である。*Youngia* は *Crepis* よりも *Ixeris* に近いと考へる。然し *Ixeris* では嘴が発達してゐる、稜は等しいものが十本ある。ヤクシサウは *Youngia* に似てくる、然しこれは平行的進化の結果で類縁はないのだらうと云ふ。兩氏は世界の大腊葉館より標品を借りて研究の結果 6 節 26 種に分類した。我が國のものでは *Youngia japonica* DC., Prodr. 7 (1838) p. 194. を擧げてゐる。これに a. *genuina* b. *longifolia*. c. *Elstonii* の 3 亞種を擧げてゐる。本邦には a. *genuina* 産するのみとしてゐる。この中に *Crepis formosana* HAYATA を入れてゐるが、私は *Crepis formosana* とオニタピラコとは別であると思つてゐる。これは高雄の壽山の頂上の岩の附近に生えてゐる葉の質の厚いものである。(北村四郎)。

クラツセニニコフ氏: 亞細亞の新菊科植物 (H. M. KRASHENINNIKOV, *New*